

通し番号	4764
------	------

分類番号	27-02-11-01
------	-------------

農産物直売所の利用者は、調理時間などに配慮したレシピの提供や、地場農産物を使った料理の実演と試食を求めています

〔要約〕 神奈川県内の農産物直売所の利用者は、新商品や健康に良いと言われる商品に関心は高いが、料理を作る時間はあまりかけたくないと考える「時短と商品関心型」と、料理が好きで健康に気を使っており、新商品への関心も高い「食と健康マルチ関心型」の2類型がそれぞれ3割程度存在する。全体的に野菜がたくさん食べられるレシピを求めているが、類型により調理時間や取り上げて欲しい食材には差がある。直売所では、各類型の要望に配慮したレシピの提供や直売所の農産物を使った調理の実演や試食提供が求められている。

神奈川県農業技術センター 企画経営部

連絡先 0463-58-0333

#### 〔背景・ねらい〕

農産物直売所の利用者は、食への関心が高く、料理方法の情報を求めているが、実際に直売所で配布しているレシピは、さほど活用されていないとの報告がある。直売所利用者の満足度を高めるため、食生活や健康に関する意識調査を基に利用者のニーズを解明し、今後直売所が取り組むべきサービスの具体的な内容を明らかにする。

#### 〔成果の内容・特徴〕

- 1 平成25年から3年間、県内12カ所の農産物直売所で実施した調査結果を基に、直売所利用者の食生活や健康に関する意識をグループ化すると、新商品や健康に良いと言われる商品に関心は高いが、料理する時間はあまりかけたくないと考える「時短と商品関心型」、料理が好きで健康に気を使っており、新商品への関心も高い「食と健康マルチ関心型」、料理が好きで健康に気を使っているが、新商品への関心が薄い「料理関心保守型」、健康に気を使わず、料理も好きではない「食と健康お任せ型」の4類型に分けられる（表1）。
- 2 4類型のうち、「時短と商品関心型」と「食と健康マルチ関心型」の2類型が多く、合わせて6割程度を占めており、いずれの直売所でも同様の傾向が見られる（データ省略）。
- 3 全体的に要望が高いのは「野菜がたくさん食べられるレシピ」である。しかし、関心の高い内容は各類型で差が見られ、「時短と商品関心型」は簡単な調理方法でできるレシピと、直売所の農産物を使った料理の実演と試食を、「食と健康マルチ関心型」はあまり知られていない野菜、果物の料理方法の紹介と試食への要望が高い（図1、2）。
- 4 利用者のニーズに対応した調理時間や作業工程を考慮したレシピや、珍しい野菜、果物を使用したレシピの提供、および地場農産物を使った料理の実演と試食機会の提供は、購買意欲の促進につながる。

#### 〔成果の活用面・留意点〕

- 1 農産物直売所での料理方法に関する情報提供やイベントを企画する際に活用できる。
- 2 夕食作りにかかる時間は60分が多い。類型間で差は見られるが、主菜、副菜を合わせた品数は3品程度であり、レシピ作成時に調理時間の目安に活用できる。

[具体的データ]

表1 食生活や健康に関する意識に基づく直売所利用者の類型化<sup>2)</sup>

食生活や健康への考え方	類型1	類型2	類型3	類型4
	時短と商品 関心型	食と健康 マルチ関心型	料理関心 保守型	食と健康 お任せ型
第1因子 健康関心因子	-0.29	<b>0.68</b>	<b>0.48</b>	<b>-1.30</b>
第2因子 料理関心因子	<b>-0.39</b>	<b>0.85</b>	0.29	<b>-1.18</b>
第3因子 商品&時間短縮関心因子	0.21	<b>0.69</b>	<b>-0.71</b>	<b>-0.95</b>
人数 (%)	339人(33.8%)	313名(31.2%)	192人(19.1%)	159人(15.9%)

z: 因子抽出法: 最尤法、回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法、固有値1以上を抽出。  
 クラスタ分析: 大規模クラスタ分析、平方ユークリッド距離による分類。数値は各類型における因子得点の平均値。絶対値0.3以上を太字斜体で表示。

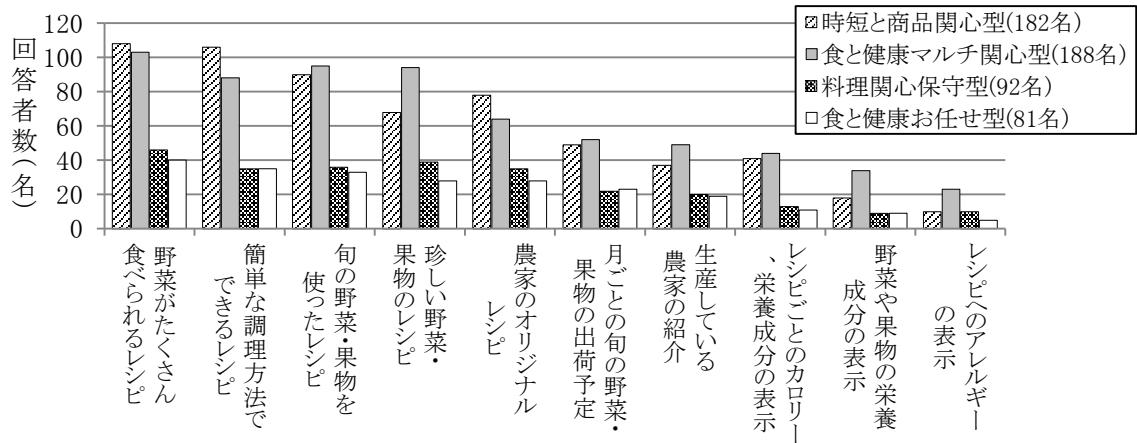


図1 類型別の直売所で欲しい情報(複数回答、回答者数:543名)<sup>2)</sup>

z: H25年～26年度 6カ所の直売所での調査

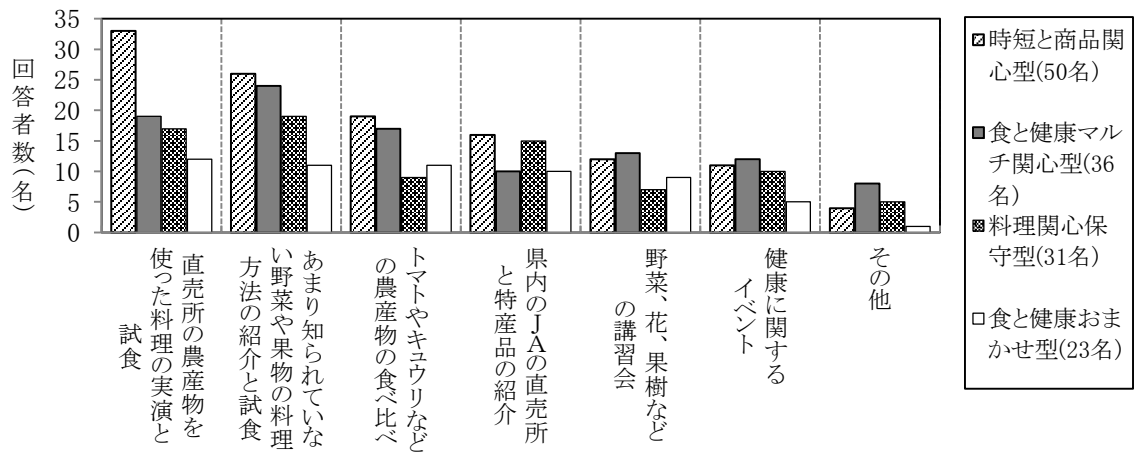


図2 類型別の直売所で開催して欲しいイベントの内容(複数回答、回答者数140名)<sup>2)</sup>

z: H27年度 2カ所の直売所での調査

[資料名] 平成25～27年度試験研究成績書(経営情報)

[研究課題名] 農産物直売所における消費者との交流を基盤とした新たな活性化策の検討

(1) 直売所における地場農産物の機能性を含めた利活用方法の教育活動による顧客満足度の測定

[研究期間] 平成25～27年度

[研究者担当名] 鈴木美穂子、北畠晶子、山崎弘

[協力・分担関係] 農業振興課